

日本女大家政 ○江澤郁子，長塚晃江，上野恵子

【目的】 昭和58年度の国民栄養調査によると，わが国における成人女性の約20%が貧血であり，その大部分は鉄欠乏性貧血であると推測されている。貧血の治療には種々の鉄剤が用いられているが，ときに胃腸障害等の副作用があることも知られている。そこで，私達は，前年度の本大会の報告に引き続き，鉄剤として硫酸第一鉄を対照に，牛血ヘモグロビンの効果を，鉄欠乏性貧血ラットを用い検討した。

【方法】 実験動物には離乳直後のSD系雌ラットを用いた。動物は鉄欠乏食で28日間飼育し，貧血状態としたのち，高濃度(200ppm)の鉄を含む硫酸第一鉄食または牛血ヘモグロビン食を27日間与え，その影響を体重増加量，飼料効率，血清鉄，血清ヘモグロビン・ヘマトクリット値，鉄吸収率および胃粘膜・骨髄の組織像から比較検討した。

【結果】 1. 牛血ヘモグロビン食群は，硫酸第一鉄食群に比し，a)体重増加および飼料効率において有意な効果を示した。b)血清ヘモグロビン値においても有意な改善効果を示した。c)鉄吸収率においては差がみられなかった。2. 胃粘膜の組織像では，28日間の鉄欠乏食飼育により，粘膜上皮細胞および腺細胞に軽度の萎縮，表層細胞に剝離が観察されたが，いずれの鉄剤投与によっても改善され，異常は認められなかった。3. 骨髄の組織像においても，鉄欠乏食飼育により巨核球の増数，細胞密度の上昇など，造血亢進像がみられたが，鉄剤投与によりいずれの群も改善され，異常は認められなかった。

【結論】 以上より，牛血ヘモグロビンは硫酸第一鉄に比べ，飼料効率および血清ヘモグロビン値に有意な効果を示したことから，鉄剤として有用であると考えられる。